

最後に、天文學の最も要求するものは、學究上の精神訓練である。單なる一技一能に囚はれず、常に宇宙と其の眞理を凝視し、人生百般とにらみ合はせて論議を進め、思想を練つて行く態度が要求される。天文學者にして、人を偽り、世におもねり、小成に安んじ、大局を見ないならば、其の學は必ず歪曲された姿を以つて、必ず曝露される時機に際會することあるべきである。

自分の一畏友は、“天文學を通じて、あらゆる理學を教育することが出来る”といふ信念を實行してゐる。自分は、天文學が、あらゆる理學のみならず、あらゆる有形無形の眞理に相通ずると思ふことが屢々である。(終. 1942-7-4)

質 疑 應 答

問ひ：三省堂編“中等最近地理概説”の中で、下記の點、誤りでないでせうか？
(大阪 K 生)

- (1) “遊星衛星は略々同一の平面上にあつて常に一定の軌道を運行してゐるが、この他に多くは軌道の定まらない彗星流星がある”とありますが、小生は彗星流星の大部分が定まつた軌道を有すると思つてゐます。如何ですか？
- (2) “地球の直徑を1.00として比較した表”に、金星=0.99, 木星=11.06, 土星=9.30, 天王星=4.23, 海王星=4.75, 冥王星=約1.00とありますが、“圖説天文講座第2巻第54頁”の表と異つてゐます。
- (3) 太陽兩極の自轉週期が30日となつてゐますが、“講座第2巻”によれば31日となつてゐます。何故ですか？
- (4) 太陽の“火峰”と“紅焰”とは同じですか？ 何故、言葉が異ひますか？

答へ：各條につき、下の如く御答へします。(A. C. E.)

- (1) “定まらない”といふ意味は、軌道面の傾斜がまちまちで、一定でないといふ意味でせう。遊星や衛星の軌道面はほぼ一定してゐるのですから(多少の除外例はありますが)。しかし、“定まらない”といふ言葉は適當でありませぬね。
- (2) 圖説天文講座に記載してある方が宜しい。
- (3) 太陽の極の自轉週期は甚だ觀測しにくいものですが、大略は31日と定められてゐます。
- (4) 同じです。Prominence といふ原語の譯語がまちまちになつてゐるのです。